

令和元年度上期「電力利用効率化見学会」を開催しました

九州地方電力利用効率化協議会では、令和元年度上期見学会を6月5日(水)に、熊本地区で開催し、18社28名に参加いただきました。

今回は、省エネセンター主催「H30 年度省エネ診断・技術事例発表会」にて省エネ取組事例を発表されたマルキン食品(株)阿蘇工場、及び、H30 年度省エネ大賞の省エネ事例部門で省エネルギーセンター会長賞受賞の白鷺電気工業(株)本社を訪問しました。

【マルキン食品株式会社 阿蘇工場】

午前は、熊本県阿蘇郡西原村にあるマルキン食品阿蘇工場を訪問しました。会社・工場の概要、省エネの取組の説明を受けた後、省エネ取組で説明のあった製造現場の設備を視察しました。省エネ取組事例として、エアコンプレッサについては、省エネ診断の結果から吐出圧を現状（出荷時の初期値）より減圧しても問題ないことから0.75MPa→0.70MPaへの変更（低減）



をされていました。圧力不足による製品の腐敗を考えると決断に戸惑ったそうであるが、省エネ診断員の「アクションを起こさないと何も変わらない」の言葉で決断されたとのこと。次にブラインチャー・冷蔵庫室外機のフィンについては、専門業者による洗浄を初めて実施されたそうです。阿蘇山の噴火による火山灰付着により、想像以上に汚れており、洗浄後は約5%の使用電力の削減につながったとのこと。省エネ診断結果により、自所で気づかないことなどのアドバイスを受けることができるので、省エネ診断の活用（プロの目で見てもらう）は重要であると感じました。

【白鷺電気工業株式会社 本社】

午後は、熊本市東区にある白鷺電気工業本社を訪問しました。工場の概要・エネルギー使用状況の説明（ZEB）を受けた後、ビル設備の視察を行いました。視察内容は、BEMSによるエネルギー使用のリアルタイムな状況を表示するモニター、地中熱利用システムの配管状況・吹き出し口の空気の体感、太陽光発電のPCS、長距離無線LAN。新技術である直流配電+直流給電照明は、直流電気機器に交流/直流変換機を介さずに直流電力を直接供給することで、変換ロスを軽減するもので、アンケートでも勉強になったとの意見が多くありました。地中熱利用換気システムは、地上より安定している地中の熱を空調に利用するシステムであり、夏季・冬季における空調のエネルギー使用の抑制に貢献しています。BEMSは、建物内の設備や機器で使用した電力量などを計測し、エネルギーの見える化や記録を行うものですが、実物を見ることで改めて参考になったようでした。



参加者からは、「取組、悩みなど共感できた」「現在の課題を実直に説明いただけたことが良かった」「地中熱利用システムは大変興味深い。初めて参加したがとても勉強になった」「直流配電システムは、新しい知見であり勉強になった」「ZEBの導入事例が大変良かった」などのコメントをいただきました。